

第4回伝統文化振興賞

鯛車復活プロジェクト

新潟県新潟市

Taiguruma Revival Project



旧巻町の「鯛車」は江戸末期から昭和の中ごろまで、主に籠屋、提灯屋などがお盆のころの副業として制作・販売していた子ども向けの郷土玩具である。しかしながら、時代の変遷とともに人々の心から忘れ去られていった。1970年代に愛好家が昔を懐かしみ一時復活させたが、その唯一の職人が亡くなると鯛車は完全に姿を消してしまった。

それから十数年後、当時美術系大学の学生が卒業制作として、自身が子どものころに夏祭りで引いた記憶が残る「鯛車」を選び、独学で制作。これをきっかけに市民有志による「鯛車復活プロジェクト」を立ち上げ、巻の鯛車を復活させるための活動を始めた。

巻から「鯛車」が消えてしまった要因を「制作を職人に頼りすぎたこと」と定義づけ、プロジェクトの活動の基本を「鯛車の作り手を増やすこと」におき、一般市民を対象とした制作教室を継続して行っている。これは、鯛車を作れる人が増えれば、自然と鯛車の数が増え、まちから消えることはないと考えたからである。

プロジェクト主催の教室は、参加者が材料費を負担し、講師は教室を卒業した人たちがボランティアで行うため、経費をかけずに継続することができる。現在は、巻の教室をはじめ、東京・表参道、長野・善光寺など県外でも行うとともに、鯛車の素晴らしさを次世代に伝えるため、小学校でも教室を開催している。

一方で、鯛車のPR活動も積極的に行っている。毎年、お盆のイベント「鯛の盆」や古い街並みとコラボする「鯛の宵」を初夏と秋に行うほか、県内外のイベントに参加して鯛車の素晴らしさを多くの人々にPRしている。

2008年からは、お盆の墓参りにあわせ鯛車の貸出しを行い（巻では8月13日の主に夕方から夜に行う）、昔のように子どもたちがロウソクを灯した鯛車を引いて歩く情景が見られるようになってきた。この鯛車の貸出しは大変好評で、年を追うごとに希望者が多くなってきている。

プロジェクトの最終目標は、昔は当たり前だった鯛車が町に溢れるお盆の情景を復活させ巻のまち全体を真っ赤に染めること、そして活動を通じて人と人の繋がりが広がり、心豊かな暮らしを取り戻すことである。



Taiguruma (a fish-shaped lantern on wheels) were once a common sight in the town of Maki, where children walked around town pulling the lanterns during the summer. It was a tradition that began in the late Edo period, however, *Taiguruma* completely disappeared from the community by the 1970s.

The *Taiguruma* Revival Project team is beginning to revive this once-lost tradition after the team leader—a college student at the time—created *taiguruma* for his graduation art project. The group regularly holds classes where local community members learn how to make *taiguruma*. In addition to reintroducing the tradition of children parading around with *taiguruma* to the community, the project also provides an opportunity for old and young generations to interact and strengthen community ties. The *Taiguruma* has now become a symbol of the community, and some businesses even use it as their logo or incorporate it into their merchandise.





受賞が与えてくれた、新たな目標

鯛車復活プロジェクト
代表 野口基幸

2011年にティファニー財団賞伝統文化振興賞を受賞したことは、鯛車復活プロジェクトの参加者、そして地元の巻の人たちに、今まで身近にあった「鯛車」の価値についてもう一度考えるきっかけを与えてくれました。まちの外から評価されたことで自分の住んでいるまちに、こんなにも素晴らしい文化が在ると誇りを持てたことと思います。

そして一番大きかったのは、ティファニー財団賞受賞が新潟市に評価され、同市の姉妹都市である米国テキサス州ガルベ斯顿市との交流を深める核として鯛車が選ばれたことです。2013年、2014年とガルベ斯顿市から美術教師をはじめとする友好団を受け入れ、鯛車教室を主体に様々な交流を行いました。また、私たちがガルベ斯顿へ赴き、現地の学校の子もたちと一緒に鯛車を引いたり、一般市民を対象とした鯛車教室を行ったりして、鯛車の活動を通じて新潟市とガルベ斯顿市の交流を深めることができましたと思います。

異国の地でも鯛車のあかりは人々の気持ちを和らげ、人と人を繋ぐ不思議なチカラがあると感じました。ティファニー財団賞の受賞をきっかけに、様々な地域で手作りの鯛車にあかりを灯し、世界平和に繋がる取組みもしていきたいという新しい目標ができました。受賞が私たちの活動にとって大きな転機となり、プロジェクトの広がりをつくっていただいたことに深く感謝しています。

